



垣野研究室ロフトユニット制作風景

2020 SPRING

2019年9月28日、八丁堀のバーにてOB二名による講演会を行いました。講演者は2000年に小嶋研を卒業した徳田慎一君と室井淳司君です。それぞれレクチャーを行い、休憩を挟んで司会役と対談、参加者から質問を受けて終了するまでの2時間半は、充実した楽しい会となりました。

徳田君は修了後、青木淳建築計画事務所を経て2015年に徳田慎一建築設計事務所を開設し、現在設計活動を行っています。

室井君は卒業後博報堂に入社し、2013年にArchiccept cityを開設、現在様々な企業のブランディングを行っています。

徳田君はたくさんのスライドのなかで、美しく緻密な作品を見せてくれました。

設計事務所勤務時代は、最初は作品集出版のための作業に関わりその後オフィスビルや青森県立美術館を経験して、事務所のチーフとして杉並区大宮前体育館や三次市民ホールを担当したとのことです。

独立後はインテリアの計画や青森県立美術館での企画展の会場構成を設計展示作品を製作し、近年完成した住宅の改装や医院の改修は、建築の雑誌にも掲載されています。既存の建物を注意深く読み取りながら空間を作り出す様子を見せてくれて、間仕切りのために製作した入れ子の二重引戸の動画には皆、驚いていました。

室井君は広告代理店での勤務時代は、空間をプロデュースするチームに所属していたとのことです。

現在の肩書きは「クリエイティブディレクター」。企業の商品のコンセプトや戦略を考え、ブランド力の向上や、新規事業立ち上げの手助けを行い、そのためのデザインやイベントのスタッフをその都度、チーム編成しているとのことです。また宣伝会議という出版社から本を出しており、大学でブランディングの講義を行っています。

流暢な説明でたくさんの実績を見せてくれました。ポップアップストアによりイメージ戦略を行うことや、消費者の生活習慣や志向を読み取ることなど、事例を6、7つ程披露し、最後に詳細に見せてくれた2つの事例は特に面白いものでした。

一つはトヨタのサービスプラットフォームの提案で、若者向けにショールームではなくサンドイッチカフェをつくり、そこでレンタカーを借りることが出来るようにして、そのままキャンプ場へ遊びにいけるパッケージまで用意したとのことです。

もう一つはスーツブランドのアオキのショップの提案で、服飾デザイナーのアトリエをモチーフに店舗をデザインしたということで、どちらも順序だてて分かりやすく見せてくれました。クリエイティブディレクターという仕事は、映像クリエイターやコピーライターなどと共同して、クライアントと視座を共有し実行していくこと、とのことでした。



徳田慎一氏による講演風景



室井淳司氏による講演風景



人・空気・未来  
高砂熱学工業

環境++LIFE!  
TakasaGo!

質疑では二人の間柄からフィーにまで話が及び、室井君は興味がとても広いことや、アイデアは面白いものでも打率が低い方は狙わないといった話が印象的でした。徳田君は自分が考えたことが施主から出てきたかのように状況を作ることが出来たら成功、という話が心に残りました。二人は同期で互いの人生に影響を与えているとのことで、それがこの講演会を良い雰囲気にしてくれました。

スライドやトークを通して、それぞれ修業期間を経て独立し、己の感覚を生かして、クライアントに対して自信をもって提案していることが読み取れました。

野田建築会では今後も NODA アーキサロンを継続して開催し、OB を紹介していく予定です。



会の終わりに集合写真



各氏の講演後、トークセッション



NODA アーキサロン ロゴマーク (暫定)



羽沢横浜国大駅

人をつなぐ、街を結ぶ、

未来へ延びる。



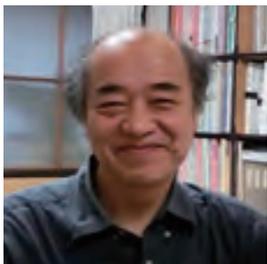
**鉄建建設株式会社**

本社：〒101-8366

東京都千代田区神田三崎町二丁目5番3号

TEL 03-3221-2152 (代表)

## モダン建築から伝統建築へ



いごう よしのぶ  
伊郷 吉信

1953年 東京生まれ  
1976年卒 (堀川研究室出身)  
1976～1979年 パンデコン建築設計研究所  
1979～1988年 群設計同人  
1988年 自由建築研究所設立  
1991年 伝統技法研究会設立  
2002～2018年 文化学園大学造形学部講師  
2006～2018年 日本大学生産工学部建築学科講師  
現在、文京区文化財調査員、練馬区文化財保護審議会委員、日本民俗建築学会理事  
作品：光源寺整備工事、田中寺整備工事、大船渡の家、安田邸修理工事、ほか多数

在学中はまだ学生運動が盛んな時代だった。将来への不安は大きかったが、ゆっくりと時間が過ぎ、ただ自由だった。この時期に将来の生き方を決定する重要な思考を身につけたといえる。後に独立し、設計事務所「自由建築研究所」を開設するが、自由は状況でなく常に進行形で求めるものとの思いで命名した。

卒業後、パンデコン建築研究所、群設計同人という事務所に勤めモダンデザインを勉強し、現代技術による建築を多数手掛けた。その後、32歳の時に児童の施設や木造建築の設計に携わりたいという夢をもち、同じ堀川研究室でアメリカから帰国した満田正二君と独立した。それから5年程で満田君とは袂を分つことになるが、今も交遊は続いている。ここでは児童館、保育園等の施設、住宅の設計を行い、早々に夢を実現することができた。当時はまだ大工は手刻みの時代で左官も木製建具も伝統職人による工事が行われていた。ただ、在来工法の設計に物足りなさを感じ、より伝統技術による設計を目指すようになる。



大船渡の家



向丘の家

当時、最高の歴史的建築の研究者、実務者を講師に集めた「日本建築セミナー」を受講した。そこで勉強した仲間と後に「協同組合伝統技法研究会」という会を立ち上げることになる。

そして、この時期に大きく建築の考えをシフトさせていった。伝統技術による空間には、手触の心地よさがあり、歴史的建物の記憶に包まれた時には安心感がある。職人の伝統技術を設計に取り入れ伝えたいと考えた。本物の自然

材料は素直で合理的である。生産と消費の長い時間体系のなかでは、決して高価ではない。私の仕事は、伝統工法による住宅、茶室、寺院などの設計、また、歴史的建造物の保存のための調査修理、文化財指定等の業務へと移っていった。

今後の仕事は、いかに職人技術を今日に残すことができるかと考えている。現在の建築には、歴史的伝統技術だけでなく、現代技術も取り入れ、自由に縦断することが必要と考えている。



忍野の家

## 木造建築の可能性

きたざわ むねのり  
北澤 宗則

1969年 長野県生まれ  
1994年 奥田研究室 学部卒  
1994～1998年  
都内に本社を置く建設会社で  
設計職として勤務  
1998年 長野県に帰郷 工務店で建築を再学  
現在、株式会社 北沢建築 代表取締役  
<http://www.kita-ken.co.jp>



卒業後、ものづくりに近いところで設計がしたいと思い、建設会社に就職して主にマンションやテナントビルの設計を行っていました。当時はバブルの余韻もあり激務だったと記憶しています。

転機になったのは賃貸マンションの最上階オーナー住戸を担当させていただいた事。普段はデベロッパーの要件を満たしながら自分なりの主張を少し入れるような感じでしたが、戸建て住宅の感覚というのか、家族の話、趣味の話、プランから細部まで施主と対話しながら設計する作業が新鮮でした。ちょっとした提案にも喜んで頂き「やりがい」というものを感じた気がしました。

それを機に信州に戻り住宅や店舗など地域の建物を中心に、施主と近い立場で「建築」というものと向き合ってきました。RCばかりやってきましたが、信州は林産県でもあり、地域材を積極的に使っていこうという時でした。地域材でつくる構造を意匠として見せることを軸とした建築に取り組みました。

しかし阪神淡路大震災後で木造住宅は弱いという逆風。木造の良さ強さを伝えるには中小規模の非住宅を木造化する事が一番の払拭法と思い、力を入れてました。

ちょうど公共建築物等木材利用促進法(2010年)が施行される前、日頃お世話になっている木造関係の方々の協力を得て、住宅で使用する小断面の地域材無垢製材のみで自社の加工場建設を実証する事ができました。

新建築(201103)はじめ色々なメディアに取り上げていた

だき、大手自動車メーカーのパンフレット、近年はアイドルグループのミュージックビデオの撮影会場にもオファーいただき聖地化してしまいました・・・。

今は「信州の木でつくる家」を主に設計、木造系建築家の物件の施工など中心に行っています。大学時代、木造というものを特別深く学んだ記憶もないのですが、構造にはとられない建築に対する理念、実験で得た肌感覚、課題をこなすチャレンジ精神、良き人脈等、理科大で学んだことが根底にあるように感じます。

今回はこのような貴重な場を頂いたことに感謝し、今後も木造建築の可能性と発展に寄与できる様、日々学び頑張っていきたいと思います。



(C) 新建築社写真部 北沢建築本社工場



(C) 乃木坂46 LLC 北沢建築本社工場

機会のない専門分野にふれることができました。

就職したアトリエ構造設計事務所の大きな魅力の一つは、数多くの建築家達の考えに直に触れ、形を作っていく作業に関われる事です。「柿畑のサンクン・ハウス」では、恩師・小嶋一浩さんのCA tとも協働することができました。

また、免震構造のプロジェクトを2件担当することもでき、北村研究室で学んだ事は実務で直接的に役立っていると感じます。北村先生には、プロジェクトの評定委員会でお世話になるという経験もする事ができました。

3年目頃から副業的に個人活動を始め、大学時代の先輩や友人と一緒に設計する機会が増えていき、特に同級生のアンドフジザキさんには、木造の設計の色々を教わっています。独立後も大学時代の仲間との協働は仕事のベースになっています。

先輩である上領大祐さんの「トイト Tiny Bakery」は運河のパン屋さんですので、機会があればお立ち寄りいただければと思います。他には、独立前に担当者同士だった同世代の方々のお仕事が多いです。また、新谷さんからも、出版等に関わる機会を頂くことができました。

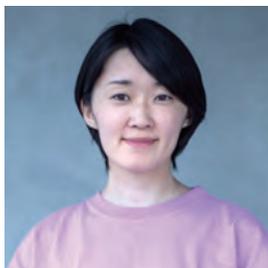
今年になって法人化し、佐藤淳構造設計事務所時代の仲間とGraph Studio という会社を立ち上げました。他のメンバーは大学での研究活動と並行しながら構造設計をしています。一人ひとり独立した物件を抱えつつ、専門分野を生かしたチームでの設計もできればと思っています。

例えば建築の世界に初めて触れた大学入学から、19年程で得た繋がりが途切れずに、形を変えつつ展開していている事はすてきな楽しみで、財産だなあと感じます。



トイト/Tiny Bakery(上領大祐建築設計事務所)

## 繋がることで展開していく楽しさ



みはら ゆうこ  
三原 悠子

2007～2017年 佐藤淳構造設計事務所  
2017～2019年 三原悠子構造設計事務所 代表  
2020年～ Graph Studio 共同代表

学部3年生のときに池田昌弘さんの本を読み、構造設計の分野にはじめて興味を持ちました。そこで、4年生では憧れの建築家である小嶋一浩さんの研究室で、構造家・新谷真人さんが受け持つ卒論ゼミに参加することにしました。4年生の終わりには、師匠となる佐藤淳さんがレクチャーにいらっしゃり、アルバイトを始めました。

大学院は小嶋さんの勧めで北村春幸研究室に移り、超高層免震構造の振動理論というアトリエ事務所ではなかなか経験する



柿畑のサンクン・ハウス (CA t)

## なみの会（井口&永野研究室）@野田新7号館 2019年10月5日開催

栗飯原 功一（1985年卒）

『なみの会』は、永野研究室と前身である井口研究室のOB／OGが合同で開催し、5回目を迎えました。今回は、10月5日に、開設したばかりの野田キャンパス新7号館ホールにて開催しました。井口先生・永野先生の講演に加え、11名のOBがスピーチで近況報告する企画とし、総勢50名を超える参加となりました。

スピーチは（学会発表時間にあわせた）6分しぼりとし、若

手年齢順で始まりましたが、高齢になるにつれ時間感覚のずれが生じることが証明され、終わり時間を大幅にオーバーする結末となりました。特に現役学生にとって、各人多方面における社会での活躍ぶりは良い刺激になったとおもいます。

講演会後の懇親会では、現役学生からも積極的にOBへの質問投げかけがあり、世代をこえた会の交流を深めることができました。



集合写真

## 理工建築6期同窓会の報告 2019年12月7日開催

山崎 晃弘（1976年卒）

12月7日（土）、PORTA 神楽坂・理窓会倶楽部にて、兵庫県、長野県、静岡県からの参加を含め総勢16名が集い、7年

ぶりの同窓会（1972年入学を中心とした同窓会）を行いました。同じ時代を過ごした友はいつまでもありがたい。



集合写真

奥田研は建築計画の研究室 (～ 2011 年) でした。

昨年の OB 会は、奥田先生ご自宅での開催。私は 4 年ぶりに娘を連れて伺いました。黒い外壁の家の中に入ると、50・60 代の先輩方が多く参加されていました。同期には会えませんが、参加者全員の自己紹介でいろいろなお話を伺うことができました。

大手から独立された先輩は その充実感と厳しさを。逆に大手へ転職した先輩はドラマティックなキャリアを語ってくださいました。

また、大学や専門学校で、学生を指導されている先輩も多くいらっしゃいました。専門外の建築材料の講義をされている話には驚きましたが、偏らず幅広い知識を持つという姿勢も奥田研らしいと思うのです。

ご自身の研究課題を熱く語る M 先輩に「40 年間まったく変わっていない！」と先生はおっしゃいました。

奥田研がパソコンを導入したのは 40 年前。当時「今日はいい子だ」とパソコンに話しかけてご機嫌をとっていた M 先輩。あれ？私が出た 20 年前の奥田研でもみた風景です。時代は違っても、奥田研というひとつの場所で過ごした空気感はずいぶん変わらないうえです。研究熱心で、ポエティ<sup>※1</sup>…。1 階のパーティールームの空気がひとつになりました。

2 階の町屋空間を探検していた娘がぐずり出したので一足先に失礼させていただきました。お土産に「大田のまちづくり」(奥田先生理事の

NPO) のパンフレットと視察された西栗倉村<sup>※2</sup>の間伐材の割り箸を頂きました。尽きない話、ランチタイムから始まったパーティは夜まで続いたそうです。

奥田先生並びに先輩方の建築とデザインへの留まることのない熱意に触れ、身の引き締まる思いです。次回は同期を誘って参加したいです。

- ※ 1 ポエティ:アンジェロ・マンジャロティ(イタリアの建築家。奥田先生は事務所経験あり)展について、建築家榎文彦氏が語った言葉の中から拝借致しました。奥田研の理想と重なる部分があると感じたため。
- ※ 2 西栗倉村:岡山県北辺、鳥取県との県境付近に位置する。様々な取り組みで若者の移住が活発化する環境モデル都市。間伐材の商品化は「百年の森林(もり)構想」のなかから生まれた。



ランチパーティの風景。右奥は談笑する奥田先生と M 先輩。左手前は娘を抱っこする筆者。



お酒もすすみ、尽きぬ話。夜も続くパーティ風景。

今年で8年目となる利根運河シアターナイトは、例年同様に9月に開催となり、天候にも恵まれ、無事に開催することができました。当日は、約7,500人の方に来場いただき、発電機が止まってしまう等のトラブルはありましたが、多くの方々の多大な御協力により、無事故で閉演まで至りました。

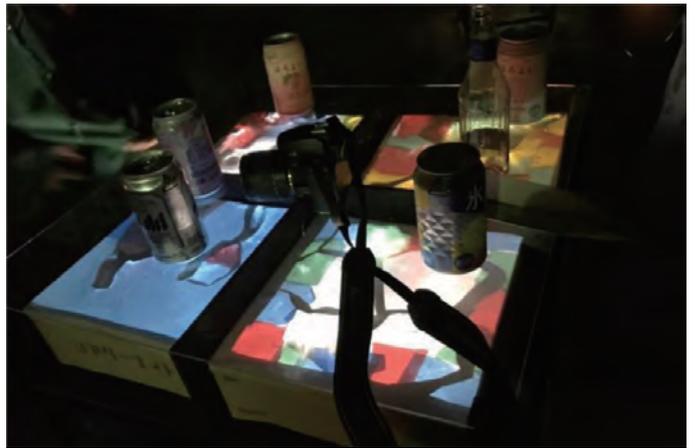
#### ・ a piece of space

今年のテーマが交流ということもあり、ワークショップに力を入れた。周辺施設や学童に力を貸してもらい、予定通り約千個の光の箱によって「光の道」を作ることになり、今年のシンボリックな存在となった。作品を作ってくれた子どもたちが見に来てくれたことも伴い、当日は光の道には行列ができるほどであった。展示を対岸から見ると電飾によって人の姿がシルエットになるようにも工夫した。また来場者からの評価も上々であった。



#### ・ 光のテーブル

映像が宙に浮いているように見えるスクリーン。スクリーンに映像が映し出されるだけでなく、透過した映像が運河の土手にも照らし出され、運河自体を巨大なスクリーンとして使用することにも成功した。メディアアートサークルC4'sの協力もあり、素敵なデジタルアートとステージのコラボが会場を大いに盛り上げた。テーマである交流にそって、大学内外の団体が演奏などを披露してくれた。



#### ・ IWA

周辺の岩を模した作品。岩から岩へ飛び移りや座ることなどの行動を促進するような作品でそれ自身が周囲を照らす役割も兼ねていた。当日は飛び移りなど活発な活動には使われず、ほぼ全員がIWA自体をテーブルやイスのように使っていた。



### ・三角錐のインスタレーション

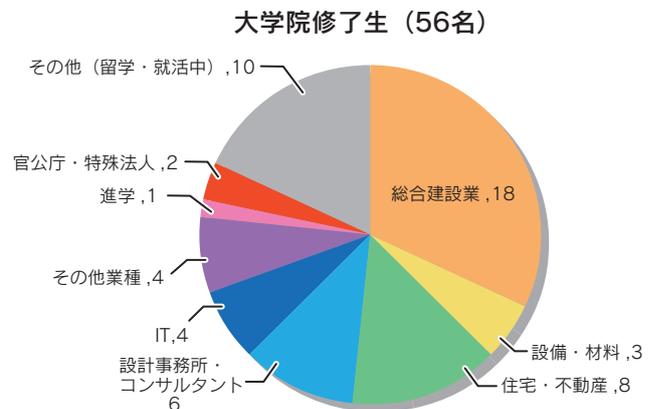
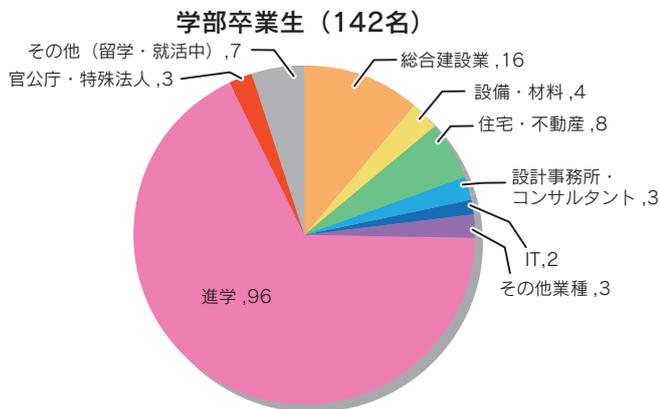
優しく光る三角錐がいくつも運河の斜面を飾った。普段あまり立ち寄ることのない運河の斜面に作品を設置することで、運河のそういった部分も自分たちに身近な存在だということを再認識させたと思う。

### ・竹のインスタレーション

30センチほどにカットされた竹の中にキャンドル型のライトを設置した。三角錐同様に土手も身近な存在だということを再認識させた。



## 2019年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各就職先リスト

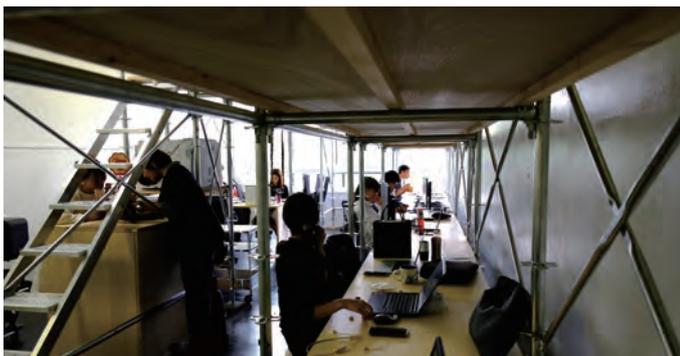


## 表紙写真「垣野研究室ロフトユニット制作風景」エピソード

2016年に旧川向研究室で活動を開始したこの研究室は、2019年に人数が30人になり、面積不足を補うためにロフトを作ることになりました。初見研究室があった2000年に行った研究室改装と同じく、工期短縮、面積・強度確保を考慮して、仮設足場を用いることになりました。この仮設足場は、新国立競技場の建設にも用いられ組み立て工程が非常に簡略化され、組み立て時に凹凸が少なく天板などの設置がしやすいこと

で選択しました。1、2階それぞれ8人(合計16人)の作業スペースを内包しています。

(コメント：垣野義典)



ロフト下で



完成時の様子

2019年11月30日。研究室OBで、1年ぶりに八王子市の東京霊園に上原先生の墓参に行ってきました。ご逝去から早いもので3年が過ぎました。

昨年は三回忌ということもあり10名のOBが集まりましたが、今年の参加者は5名でした。5名のうち4名は過去2回の墓参と同じメンバーでしたが、1名が今回初めて参加してくれました。

彼は2016年当時から沖縄の大学院大学で働いていて、告別式も、その後の墓参も一切参加できなかったのですが、本年、沖縄から帰って東京の不動産会社に就職したのを機に参加したとのことでした。先生もきっと喜んでくださったと思います。

来年の墓参も、彼のように、初めて墓参に参加してくれるOBが出現してくれることを望みます。

参加者： 山崎晃弘 (1976)、五十嵐洋也 (1978)、日高靖晃 (1984)、出塚哲也、星合善文 (1988)

この後、皆で神楽坂に移動して、PORTA 神楽坂 6階「理窓会倶楽部」で上原研究室OB会を行いました。

参加者： 佐藤克志、山崎晃弘 (1976)、日高靖晃 (1984)、出塚哲也、好士崎倫子 (1985)、星合善文 (1988)



## 奥田宗幸先生ご慰労会を開催しました

中畑 昌之 (2004年卒)

2020年1月20日に、奥田宗幸先生(現名誉教授)のご慰労会を開催しました。

先生は2011年に退官されましたが、その後も継続して構法計画の講義を受け持ってこられました。2019年度をもってその任を終えられるということで、ご慰労と長年の感謝の意味をこめて品川のシーフードリパブリックにて食事会を開催しました。会には奥田研究室OB9名に加え、岩岡竜夫教授にもご参加いただき、先生ご夫妻を囲んでの和気藹々とした楽しい会になりました。

先生は1974年に東京理科大学理工学部建築学科に着任後、46年の長きにわたって運河に通っておられました。先生からは、大学キャンパスや運河駅周辺の景色がずいぶん様変わりしたということ、着任の頃は、常磐線と東武野田線の柏駅での連結が悪く時間がかかったため、松戸駅から野田キャンパスまで運行されていた教員用のスクールバスに30分揺られて通勤されていたこと、先生の恩師である池辺陽氏やアンジェロ・マンジャロッチ氏とのエピソード、現在取り組まれているNPO法人大森まちづくりカフェのことなど、バラエティに富んだ興味深いお話を伺いました。退官後もお元気で様々なことに取り組まれているご様子を知ることができました。

奥田先生、長きにわたり本当にお疲れさまでした。先生と大学の関係でいうとこれがひとつの節目になりますが、奥田研究室では毎年10月にピクニック形式のOB・OG会を代々木公園で開催しており、卒業生が家族を連れて参加する賑やかな秋の風物詩となっております。こちらは今後も変わらず継続していきたいと思っております。



2019年9月11日、新7号館6階講堂にて理工学部主催による表題のセレモニーが第1部13:00～14:30と第2部14:30～17:00の構成で開催され、引き続き懇親会17:30～19:30が開かれ、滞りなく終了しました。

- ・挨拶：井出本学部長
- ・来賓挨拶：本山理事長  
松本学長  
理窓会増渕会長
- ・講演者：東大大学院 渡邊英徳教授(理工建築1997卒)ほか

■ 野田キャンパス新7号館 NRC (Noda Research Campus) / 教育研究センターとは

2017年に理工学部50周年を迎えるにあたり考案された“RESONANCE”に基づき、学内のみならず国内外の他大学や企業・研究機関と連携し、学部と大学院生がともに響きあうよう学修・研究体制を具現化するために構築された、“創造・イノベーション・融合”をテーマに教育・研究を行う建物

※ 建物概要：地上6階建免震構造、延床面積9829.93㎡、1階の上島珈琲店や2階4階のミーティングルーム、6階のホールなどの共響スペースが特徴

※ 上島珈琲店東京理科大野田キャンパス店：“上島珈琲店”では初の大学キャンパス店舗

※ 設計監理は、株式会社エムアーキ 代表 宮原 亮 (1986年卒)



新7号館の外観 (理窓2020年1月号より転載)



新7号館1階談話室 (同上)

標題は今年で5回目の開催となり、築理会(工学部建築学科同窓会)50名と野田建築会18名の総勢68名の参加者により、例年通り盛会に終わることができました。

参加者の年代は、築理会では1963～2019卒と工学部修士2名、野田建築会では1976～2016卒でした。  
ご参加の方には厚く御礼申し上げます。





## 第12回 定期総会・懇親会開催のお知らせ

定期総会（予定：詳細は追って配信メールまたはHPやFBでご確認ください。）

日時：令和2年5月30日（土） 13：30～受付、14：00～定期総会  
15：00～講演・ミニコンサート・懇親会  
場所：PORTA 神楽坂6階・第1会議室  
会費：4,000円/人を予定

### 2019年度 寄附金について

当会は皆様の会費とご寄付により運営しております。創立時および直近のご寄付は下記の通りです。

単位：円					
2019年度	10,000	栗飯原功一	10,000	五十嵐洋也	
(2020年1月末時)	10,000	堀部加壽春	10,000	山崎晃弘	
	6,000	兼田好彦	10,000	八田直人	
			年度計	56,000	

### 寄付のお願い

NAAの活動は皆様の普通会員年会費（年額3,000円）を大きな支えとし、会報の広告料収入と有志の皆様からの寄付により運営されています。その構成比率は会費収入67%、広告収入25%、寄付8%（2018年度予算）となっています。今後さらに積極的な活動を行うには寄付の比率を上げる必要があります。NAAへ寄付を頂きますと会報にお名前を掲載させて頂くほか（もちろん匿名も可）、名刺掲載や個人広告等のオプションを考えています。詳しくは野田建築会ホームページからお問合せ下さい。

これを機会に是非皆様からの寄付を頂きますようお願い申し上げます。

### 編集後記

今回の表紙写真で最近の研究室や学生達の活動の様子をお届けすることができたことが、個人的にはとても嬉しいです。垣野先生は、初見研究室時代大変お世話になった私の2つ上の先輩でもあります。当時の初見研究室にも足場材で学生達が制作したロフトがあり、この写真を見ると、学生時代に初見研究室のロフトで仲間達とmacを並べて卒業論文を書いたり、飲み会の流れでそのまま寝袋にくるまって雑魚寝した日々が懐かしく思い出されるのであります。こういう場を産みだすことも、小さいながら「建築の力」ですね。（とりやま）

年度末は例年バタバタしておりますが今年度はコロナ騒動がおりどうなることやら?!会報の編集もとりやまさんのお手伝い程度です。とりやまさんありがとうございます。（大野）



某日の会議風景

### 会費納入のお願い

NAAでは会則により、2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、OBと語る会の開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。（お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください）

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。  
（注）年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPでお問合せください。

### 野田建築会会報 VOL.43 2020 SPRING

2020年3月1日

編集：会報部会（とりやま あきこ / 大野 芳俊）

発行：東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

